

mizuki

みずき
第7号



大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室ニュース ● 2007年5月発行

contents

- 会議報告と今後の行事予定 P.1
- 「診療科紹介リーフレット」発行のお知らせ P.1
- 診療科の紹介「一般小児科、発達小児科」 P.2
- セカンドオピニオン外来 P.4
- 編集後記 P.4

第4回高槻市医師会・大阪医科大学医療連携合同会議 開催報告

去る2月10日(土)たかつき京都ホテルにて「第4回高槻市医師会・大阪医科大学医療連携合同会議」を開催いたしました。講演では輝生会初台リハビリテーション病院理事長 石川誠先生をお招きし、「医療連携における回復期リハビリテーション病棟の重要性」についてのお話をいただきました。

かねてより医療連携にご協力いただいている地域の先生方に多数ご参加いただき、今年は総勢90名での会となりました。



今後の行事予定

- 平成19年5月18日(金) 三島圏域がん・緩和医療セミナー
- 平成19年6月30日(土) 三島圏域がん・緩和医療研修会
- 平成19年7月28日(土) 四医師会・大阪医科大学医療連携の会

本院ホームページにて、各診療科の研修会・カンファレンス情報を公開しております
http://hospital.osaka-med.ac.jp/for_doctors/conference_top.html



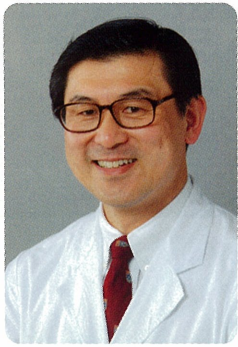
「診療科紹介リーフレット」発行のお知らせ

本院では各診療科の特色や基本方針を患者さまにご理解いただいたうえで受診していただけるように、「診療科紹介リーフレット」を患者さま向けに発行いたしました。

病院外来棟1階「ご来院のみなさまへ」の一角に置いてありますので、ご自由にお取りいただけます。



診療科の紹介 ● 一般小児科、発達小児科



本院の小児診療部門は一般小児科と発達小児科に分かれています。
今回は小児科全般とリニューアルされた小児病棟、
および大阪医科大学の関連施設である
LD (Learning Disabilities: 学習障害) センターをご案内します。

一般小児科科長
LDセンター長
玉井 浩

新小児病棟

平成19年3月28日より、65病棟を小児病棟としてリニューアルオープンしました。カラフルな明るい病棟で、床はクッション性のよい素材を使った安全性の高い仕様になっています。昨年4月に設置された院内学級(小学校のみ、中学校は訪問学級)とともに、子どもたちの安全性と教育環境が格段に向上しています。



処置室

子どもたちの不安な気持ちが少しでも和らぐように、かわいい恐竜たちの壁紙が貼られています。



ナースステーション

小さな子どもたちが看護師に声をかけやすいローカウンターです。



廊下

部屋ごとに入りの色が違うので自分のお部屋がすぐ覚えられます。廊下の天井は明るい空の模様です。



外来診療の特徴

小児科には新生児から学童期、思春期、さらに小児期からの病気を大人まで引き続き持ち越したキャリアオーバーの方々が来られます。また、循環器をはじめ、消化器、アレルギー・免疫疾患など、「診療のご案内」にありますように内科に見られるほぼすべての領域をカバーしています。

最近の本院小児科診療の特徴の一つとして、ダウン症児の受診が多いことがあげられます。これはLDセンターでのダウン症児療育プログラム「タンポポ教室」へ連携をしていることが、その理由になっていると思われます。また、昨年より本院での小児心臓外科手術の再開が順調にすすんでいることも心臓疾患の合併の多いダウン症にとっては朗

報となっています。同じく合併の多い斜視・屈折異常は眼科(小児眼科)で、また外反扁平足は整形外科で、難聴は耳鼻咽喉科で専門的に診察・治療が受けられる総合病院のメリットがいかされています。これまでは学校に上がる頃になると受診は減ることが多かったのですが、学童期・思春期・成人期になってから甲状腺疾患や早期退行やうつ状態などの相談を小児科で受けるようになりました。このようにキャリアオーバーした人も含めて小児期から一貫してフォローすることを目指しています。

この他にも、特徴ある診療領域がありますが、改めて別の機会にご案内いたします。

LDセンター(大阪医科大学関連施設)

「タンポポ教室」のダウン症赤ちゃん体操教室では独歩までの乳幼児に対して筋力アップのトレーニングを行い、同時に摂食指導や手先を使ったおもちゃの遊び方指導などを行っています。独歩後は、のちの言語指導に役立つように「やりとり」を中心にグループあるいは個別で指導を行っています。こういった早期からの運動と言語指導プログラムに、近畿各地から年間200名近くのダウン症児が通っています。

LDセンターは、LD、ADHD(注意欠陥多動性障害)を中心とした発達障害児の言語や視覚認知機能に注目し発達検査と言語指導を目的に、平成13年4月に設立されました。学童期になって「読み書き」に障害をもつ子どもは、ひらがな習得が遅れたり、言葉の意味理解が困難であったり、言葉の記憶が困難であったりすることが多く、学習に困難を来すことが分かってきましたが、幼児期には言葉が遅れている、友達とうまく遊べないだけのこともあります。この子たちに幼児期から小学生にかけて適切に言語指導することにより学校に適應させることを目的として、大阪医科大学附属病院小児科(以下、病院小児科)外来と連携して運営されています。センターでの特殊な検査と指導は病院組織ではないため健康保険の適用ではありませんが、健康保険範囲内にある発達検査・知能検査は、できるだけ病院小児科で行っています。

平成19年4月から特別支援教育が実施されましたが、未だ診断を受けていない子どもたちも多く、また診断されても適切に理解され対応されていないケースも多く存在します。診察まで長くお待ちいただいておりますが、満足していただける診療と指導内容にするよう努力しています。



LDセンター入口



タンポポ教室指導室



学習クラス指導室

LDセンターへの紹介経路

大阪医科大学附属病院と連携しています。
 ダウン症のお子さまは、小児科の神経外来(ダウン症外来)を受診後、
 医師の紹介にて、タンポポ教室に入室します。
 LD(LDサスペクト幼児)・ADHD等、
 いわゆる軽度発達障害のお子さまは、
 まずLDセンターの診療部門にて
 小児神経科医の診察を受けます。
 その後、同センター内の評価・指導部門に紹介、
 学習指導やビジョンセラピーのクラスに入ることができます。

大阪医科大学附属病院
 小児科

神経外来(ダウン症外来)

LDセンター

診療部門 LDクリニック

評価・指導部門

- 学習障害
 (読み書き障害・算数障害・言語発達遅滞など)
- オプトメトリストによるビジョン・トレーニング

評価・指導部門

- ダウン症児のための「タンポポ教室」
 (赤ちゃん体操・ことばとリズム・ことばと学び他)

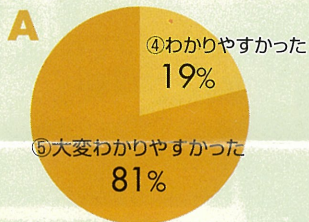
セカンドオピニオン外来



医療連携室室長
木村 文治

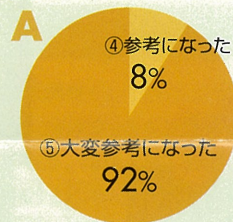
本院では平成17年6月よりセカンドオピニオン外来を開設させて頂き、平成19年3月末までに137人の患者さまにご利用頂いております。外来後のアンケート調査（2006年11月より実施）でも患者さまおよびご家族の方々にはたいへん満足頂いております（下図）。

Q 説明はわかりやすかったですか？



- ①わかりにくかった
②ややわかりにくかった
③ふつう
④わかりやすかった
⑤大変わかりやすかった
5段階評価で①～③は該当者なし。

Q 参考になりましたか？



- ①参考にならなかった
②あまり参考にならなかった
③どちらともいえない
④参考になった
⑤大変参考になった
5段階評価で①～③は該当者なし。

セカンドオピニオンとは、その名の通り“第二の意見”です。患者さまご自身の診断、治療方針ないしは治療の選択について主治医以外の専門医師の意見を求めることです。医療界が自らの手で推し進めている医療の透明性や公明正大性を確保し、より一層医師－患者間の信頼関係を高めることを目的として導入され、日本でもようやく普及しつつある医療システムです。この主旨の元で、医師側には他専門医の意見を聞く“耳をもつ”こと、治療や診断における独断をなくし根拠に基づいた医療が求められます。

患者さまからご要望の多い対象疾患はがんをはじめ、その他難病疾患です。一般的病気の詳細から手術適応、病気の予後、治療法の選択まで多岐にわたっての意見を求められます。インフォームド・コンセントの充実、患者自身の自己決定権の普及、などがこの背景にあります。

本院で対応させていただける具体的疾患名についてはホームページ（下記アドレス参照）に公開しておりますのでご覧ください。

大阪医科大学附属病院が誇る医療人材スタッフの診療経験を大いにご利用いただき、治療方法の選択や決定に少しでもお役に立てればと考えております。

セカンドオピニオンお申し込みに当たってのお願いとご注意いただきたいこと

- ◆1時間31,500円です（保険適用外で全額自己負担です）。
- ◆診療行為は行いません。お預かりした資料に基づいた専門医の意見提供のみです。
- ◆完全事前予約制です。また患者さまからの直接予約は受け付けておりません。
必ず医療機関を通してお申し込みください（ホームページから申込書等の一式がダウンロードできます）。
- ◆転院を前提としたものはお受けしていません。

セカンドオピニオンに関する詳しい説明はこちらをご覧ください。

http://hospital.osaka-med.ac.jp/for_patients/second_opinion.html

編集後記

G.W.も無事終わり、諸先生方も普段の生活に戻られたことと思います。ここ数年異常気象が叫ばれる中、2月と3月の平均気温が逆転するような事態を考えますと、地球温暖化傾向をこれ以上進行させない為にも、世界共通のテーマとしての議論と実行が必要であると感じています。

さて、わが病院医療相談部は現在の場所に移転してきて4月1日で1年が経過しました。

当初は病院内の一等地へ移転するという事で緊張感もありましたが、病院医療相談部の業務を考えると最適な場所であったと考えます。今後はさらに努力を重ね、地域医療機関・患者さまにとってより身近な病院医療相談部になるよう心掛けたいと思います。

地域医療連携のために、今後とも尚一層のご支援をよろしくお願いいたします。

(T.S)